2019 年度コラボミュージアム作品づくりコンテスト

小学校・中学校部門 アピールシート

2020年 1月8日

徳島県鳴門市立撫養小学校 所属名 :

実践学年組: 5年

氏名:藤倉新

教科	総合的な学習の時間
実践期間	2019年10月2日

実践タイトル (35 文字以内)

ひなんクイズの下書きを考えよう

実践の目的

ツールを活用して論理的に考えることのよさに気付くことができる

実践のポイント・工夫

- コラボノートEXのテンプレート「順番に書いてみよう」の「ふせん」や「矢 印」を利用して、順番や判断を考えるフローチャート風の形式に容易に作り変 えることができた。
- ・ 児童がチャートを作成する際に必要な部品(設定や問題を書いた「ふせん」や 「矢印」)をあらかじめシートに枠組みしておくことで、作業にかかる時間を調 整することができた。
- 手本をシート内に例示することで、部品のコピーや貼り付けに必要感を見出し、 情報活用のスキルを高めることができた。また、コラボノートに共有されたク イズを瞬時に見合い、「付箋紙」機能を用いて相互にアドバイスをすることで、 よりよいクイズになる視点を共有できた。

実践内容(簡単に)

全校朝会で休み時間の避難の仕方について Scratch で作成した○×クイズで伝え るために、本時ではコラボノートEXのテンプレート「順番に書いてみよう」を活 用することで、避難に仕方について構造化した。

(コラボノートを)使用してよかった点を教えてください。

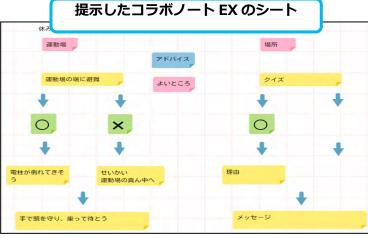
・「何度も問題作りをやりなおした。」や「アイデアをもらい自分のチャートをすぐ にかえられた。」、「楽しかった。早く、またしたい!」という趣旨の感想が多く挙 がった。問題を作り直すことは、チャートを活用して情報を可視化、構造化するこ とで、どこの部分にエラーがあるのか等を予想し、論理的に矛盾のない仮説を立て

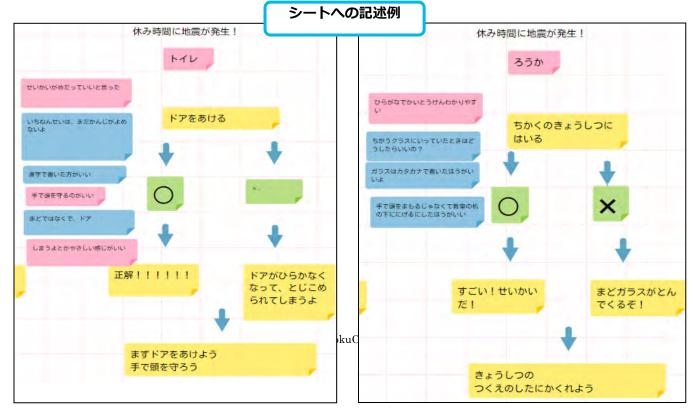
ようとする姿であると考える。また、コラボノートの共有や「付箋紙」機能により、 友達の作業途中を見ることで、見通しをもつことができたり、すぐに友達や教師か ら評価されることで、情報機器を扱う関心以上に、問題解決に意欲的になったりし ていると感じた。















総合的な学習の時間の単元構想 【第5学年:70時間】

単 元 名 地震から自分や周りの人の命を守ろう 探究課題

災害から地域の人々を守るための活動の価値と, それに携わる人々の努力や創意工夫に気付く。

信したりして、表現する力を育成するとともに、生活を見直していこうとする態度を養う。

災害から地域を守る取り組みに尽力する人に関わる活動を通して、共助や公助の大切を理解するとともに、自 単元のめあて 分や地域の人の命を守るためにできる課題を見付け,必要に応じて情報を収集し,目的に応じて考えたり,発

1. 児童の実態

2. 学習材(避難訓練)について

3. 自分の事につなげる指導について

・朝の学習を通して、思考スキル「分類 する」や「比較する」「多面的に見る」等 を習得している。

・防災は命に関わる問題であるため、自 分の事として考えやすい。 ・これまでの学校生活で避難訓練を経

要不可欠であり、 論理的で根拠をもつ

①自分の活動を決定する 児童の思考の流れを大切に, 意味ある 本物の状況を設定する。 ②新たな問いを見つける 差異を感じるために、他者と考えを比較

・教科学習においても、学級担任が思 考スキルやツールの活用を図っている。 ・5月末に実施した鳴門高校への避難

験しているため、見通しをもてる。 避難の時間や場所を変更することで、 新たな課題の設定が可能である。 ・命を守るための確かな情報や知識が必

する場を設定する。 ③自分の言葉で語る ルーブリックを児童と共に考える活動を設 定し,活動の見通しをもつ。

訓練では、全校朝会で経路や地震の こわさをプレゼンで発表し, 訓練に真剣

に取り組めたことに成果を感じている。

た話し合い活動になる。

4. 小単元2 避難訓練を企画しよう【28時間】

サイクル 1【8時間】 鳴高避難訓練プロジェクトI

【課題の設定】 ・鳴門高校への地震津波避難訓練 サイクル2【8時間】

【課題の設定】 ・休み時間の地震津波避難訓練

休み時間避難訓練プロジェクトⅡ

サイクル3【12時間】 地域の方と避難訓練プロジェクトⅢ

(12月) を計画する

【課題の設定】B-① 防災会との地震津波避難訓練

(6月)を計画する

【情報収集】 防災センター見学(遠足)

・市防災課の方へのインタビュー

【情報収集】

・防災センター出前授業

(10月)を計画する

·徳島新聞NIE出前講座

【情報収集】 防災マップ作り

・地元防災会の方へのインタビュー

に招待し伝える

【整理・分析】

・全校朝会で伝える内容を「見通す」 「分類する」

【整理·分析】C - 4

・全校に伝える内容を「見通す」「分 類する」

【整理·分析】B-③ ・広報誌等で地域に伝える内容を 「見通す」「分類する」「比較する」

【まとめ・表現】

・全校朝会で地震や津波のこわさや 避難経路等をプレゼンで伝える

【まとめ・表現】

・朝会で休み時間の各場所において の避難の仕方をクイズで伝える

【まとめ・表現】C-② ・地域の方に避難の仕方を防災カフェ

学びに向かう力, 人間性等(C)

5. 育成を目指す資質・能力

知識及び技能(A)

○災害による被害を少なくするには、「自 助」が大切であり、安全対策や身の守り方 を知っておくことが必要であることが分かる。 ○災害から身を守る取り組みが, 行政, 各家庭などによって進められ、それぞれが関 わり合い役割を果たしていることに気付く。 ○災害から身を守るためには、その時だけ でなく、日頃から地域や周りの人々と関 わっておくことが大切なことに気付く。 ○第5学年で身に付けたい学び方を習得 することができる。(Eメールで質問,アポ イントの取り方, お礼の仕方等)

○「分類する」「理由づける」「多面的にみ

考ツールを用いて活用することができる。

る」「見通す」「比較する」の思考スキルを思

思考力, 判断力, 表現力等(B)

①在校生や家族, 地域の人の

命を守るために, 自分たちにで

きそうなことを課題に設定できる。

②ネットや本に載っていない地域

情報の収集 の防災情報を地域の専門家や 先人にインタビューをして収集で 整理·分析 ③高齢者や体の不自由な方の 視点をもち、情報を関連付けた

り多面的に考察したりできる。 **(4)** まとめ表現 ④相手意識や目的意識をもち, 意図に応じ, 工夫してまとめ, (5) 表現できる。

振り返り ⑤学習の仕方を振り返り、学 習や生活に生かそうとしている。

課題の設定

協働性 (5)

(4)

1 主体性

他者理解

自己理解

内面化

地域貢献

合意形成することができる。 ⑤自分の成長や友達の成長を振り 返り, 様々な価値観を認め合うこと の大切さに気付くことができる。 ⑥地域の方と朝の挨拶などを通して, つながりをもとうとしている。

①自分や周りの人の命を守りたいと

いう思いをもち、地域の課題を自分

②プロジェクトでは, 自分の得意なこ

とを選び、力を発揮することができる。

③他者からの助言や意見を参考に

して,多面的に見ることの大切さに

④話し合い活動を通して, 友達と

の事として捉えることができる。

気付き、よりよく改善できる。

授業日

10月2日

活動場所

5年1組教室

児童数

24名

授業者

藤倉 新

※特別活動2(2)ウ「心身ともに健康で安全な生活態度の形成と教科横断的な学習を実施する。

本時の目標

被害状況を想定し、状況に応じた適切な避難行動についてクイズ作りを通して、ステップチャートを活用して論理的に考えることのよさに気付き、自分の考えた避難行動を他者に伝えることができる。

学習到達度

S:教室と比較し、特徴を踏まえた問題を作る。A:チャートの枠組にあったクイズを作る。

子 授業前

・朝会で休み時間の避難の仕方について、発表やScratchでのクイズを作りを楽しみにしている。

供授業後

・生活の課題を設定し、ステップチャートを用いて論理的に考え、解決への糸口をつかんでいる。

の

_次 授業中

・避難行動を考えたり変えたりする際に、ステップチャートを用いて論理的に考えることのよさを実感している。

予想される子供の活動と反応(分)

○教師の支援 ◆評価規準及び評価の方法 ☆コラボノートの活用

※前時にコラボノートEXのPMIシートを体験している。

1 本時のめあてを確認する。(5)

ひなんクイズの下書きを考えよう

【避難場所の例】

図書室, 廊下, 体育館, トイレ, 運動場, 理科室

2 部品(付箋や矢印)を選択し,自分の考える クイズを見える化する。(25)

もし休み時間に地震が起きたら

○Scratchで作成したクイズを例示することで、学習の見通しをもつことができるようにする。

☆電子黒板にiPadの画面(コラボノート)を写すことで、使い方を共通理解できるようにする。

- ○教師がチャートを提示することで、○×クイズを作る際の構造を視覚的に捉え、論理的に考えることのよさに気付くことができるようにする。
- ○よりよいクイズについて問いかけることで、チャートだけでなく内容にも焦点を当てることができるようにする。
- (1,1年生にもわかる。2,教室と比較し,担当の避難場所の特徴がわかる。3,6年生にもなるほどがある説明がある)

☆チャートの作成に必要な部品(設定や問題と書いた付箋紙や矢 印)をあらかじめシートに枠組みしておくことで,児童の作業にかかる時間を短縮できるようにする。

☆活動が進んでいない児童には、共有ページにある友達のクイズを見ているよう指示をすることで、活動への見通しをもつことができるようにする。

3 友達とクイズを見合い、アドバイスやいいねを付箋 紙で送り、自分のクイズを修正する。(10) ○友達のクイズを見て、自分のクイズと比較することで,自分には足りない視点を得て、付箋紙の機能で共有することができるようにする。

☆付箋紙の色を変えることで、伝える内容を分類する。

- 4 PMIシートに本時の振り返りを記入する。
 - 例: クイズを分解して順番に並べて考えることで、伝えたいことの説明に合った理由や問題が作れ、分かりやすく説明することができそうです。

☆1枚のPMIシートに感想を共有することで、自分の考えに責任をもつ ことができるようにする。

◆チャートを用いて,避難の仕方についてクイズ作りをすることで,論理的に考えることのよさについて感じている。 (A)